

・ 柏の葉地域の空間的変遷¹⁶

柏の葉周辺の地域は1926年、千代田村から柏町に改名された。1930年の地図を見ると新田という地名があり、江戸時代に開墾された農地であることがわかる。また、豊四季や十余二をはじめ、開墾された順番が地名に残っていることが特徴的である。1938年には帝都防空のため、柏飛行場が建設された。戦後は食糧難に対応するため、柏飛行場は開拓農地に転化され、飛行場跡地に開拓村ができた。1950年の朝鮮戦争が勃発したことをきっかけに、米軍通信基地が開拓農地に建設されることになり、1963年には基地は拡大されましたが、1979年に全面返還された。接収解除後には、区画整理が行われ、国有地には県立柏の葉公園等の公共施設、税関研修所、科学警察、国立がんセンターなど国の施設が多く建設された。飛行場であったことが、平坦でまとまった土地が公共施設立地には適している。また、柏の葉キャンパス駅の立地する場所は三井不動産が所有するゴルフ場であった。(図2-15～2-23)

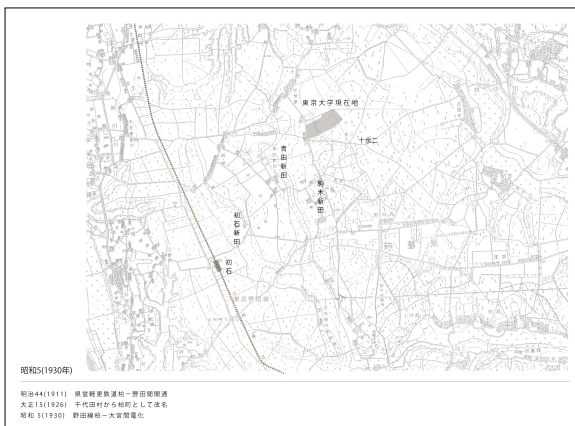


図2-15 1930年の柏の葉エリア

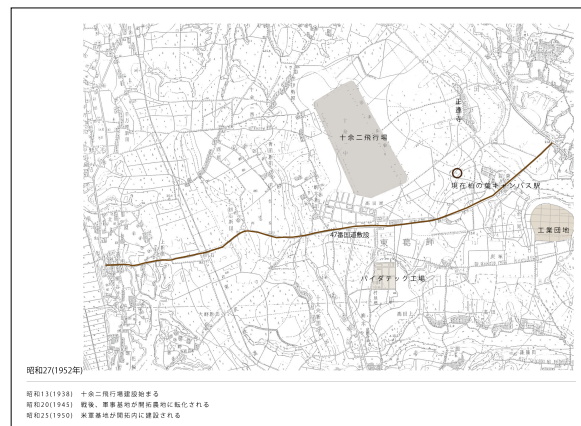


図2-16 1952年の柏の葉エリア

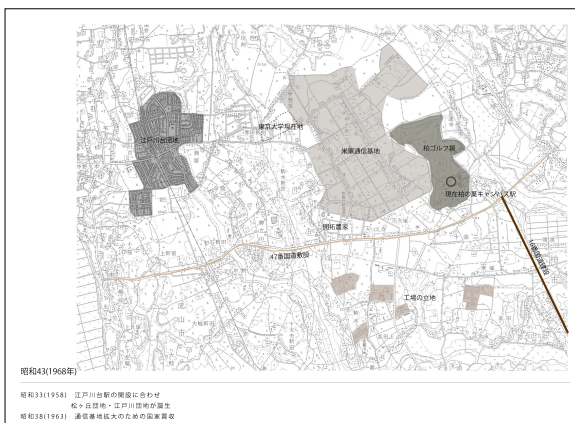


図2-17 1968年の柏の葉エリア

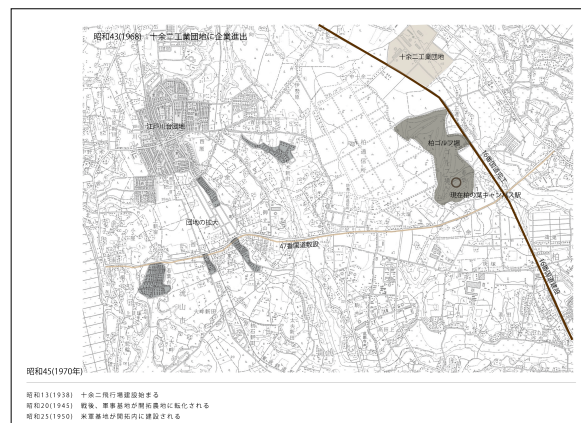


図2-18 1970年の柏の葉エリア

¹⁶ 柏の葉の歴史 東京大学空間計画研究室「柏の葉歴史資料」